

特集

道民の熱意で建設 「北海道百年記念塔」 シナリオは誰

されたはずなのに… 「記念塔」解体の シナリオは誰

●レポート 黒田 伸
(フリー・ジャーナリスト)



本誌の1969(昭和44)年1月号表紙は
翌年竣工予定の「百年記念塔」で飾った
(説明には「500万道民の熱意で建設される」としている)

老朽化を理由に秋にも解体工事が始まろうとしている北海道百年記念塔(札幌市厚別区)。ここに来て解体を決めた道の決定や、解体を認めた道議会に対してさまざまな疑問の声が上がっている。6月下旬には札幌の市民団体が「記念塔保全」を訴えるパネル展などを開催する。

解体を決定付けた「倒壊危険論」や「アイヌ民族への配慮」などのシナリオはいつたい誰が、どんな目的で書いたのか、を探る。

「北海道的シンボルを壊すな」

「50年も愛され続けた北海道のシンボルを壊さないで欲しい。道民の誰もが本当は壊さずにこのまま存続することを願っているのですから」

パネル展を開催する「北海道を考える会」(北考会)の役員は語気を強める。

「北海道百年記念塔保全」パネル展は、6月27日と28日の2日間



続きは『月刊クオリティ』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)